

人が集いほっとする
「癒やしの里」が
僕の夢

ほし よしみち
星 義道

NPO 法人森林野会 理事長

昭和 23 年（1948）、南会津町生まれ。

中央大学法学部卒業後、上場会社就職。退職後独立し、大阪に輸入販売株式会社を設立し社長就任。2008 年に南会津町に U ターン。高野もりネット協議会会長を務め、「じね〜んの森」の開発推進など、里山再生とフィールドづくりの活動を進めている。

60 歳で実家に戻ったとき、かつて先祖が開いた田畑は

“やぶ化”の荒れ放題になっていました。

そこで「じね〜んの森」と名付け、コツコツと整備を始めました。

しだいに仲間も増え、里山に自生していた「サルナシ」を栽培拡大、その実をジャムやジュースに商品化したり、子どもが遊べる場所を作ったり。

そんな活動の道半ばに、東日本大震災は起こりました。

地震の被害はほとんどなかったものの、やはり風評被害は大きかった。

キノコ作りも震災後少しずつ再開したのですが、以前のように戻らない。

「皆が一丸となって取り組まなければこの局面は乗り切れない」と思い、整備の範囲を広げ、高野地区全体を癒やしの里にしようという構想実現に向けて「高野もりネット協議会」を作りました。サイクリングができるような 10km の道、見晴台も整備したいと考えています。

また、高野地区の千本桜を目指し、既に 200 本以上の桜を植えました。

この広大な自然は、宝の山なんです。

私自身、都会からこの里山に戻ってくるとほっとしました。

その“ほっとする”を考え形にしていきたい。

人が集まり、みんなが元気になると地域全体が活性化していく。それが夢です。



サルナシ収穫祭の風景